

横 発 委 第 5 5 号  
令和元年9月11日

横手市議会議長 齋藤 光司 様

横手市議会厚生常任委員会  
委員長 高橋 和樹

平成 30 年度議会報告会・意見交換会及び市民と議会の懇談会において  
いただいた、ご意見ご要望等に関する精査結果等について（報告）

表題の件について、本常任委員会において精査した結果を報告します。

## ①市民生活に重要な影響を及ぼすもの。至急対応が必要なもの。

### 1. 健診の実施方法について

健診体制の変更により会場が巡回検診バスから直接平鹿病院に行かなければならなくなったことから市バスによる送迎の実施や、もっと厚生連などと横のつながりを持って進めてもらいたいなどの意見があった。受診体制の変更により受診率の低下は免れないものと思われることから至急の対応策を講じる必要があると考えられる。

### 2. 共助組織について

雪下ろしなどを行っている共助組織から、共助組織の構成員自体が高齢化しており、活動に支障をきたしている状況や、共助組織が行う高齢者世帯の雪下ろしに助成していただけないかなどの意見があった。高齢化は進む一方であり今どうするかが緊急の課題と考えられる。

### 3. ファミリーサポートセンターについて

核家族で育児中の母親が病気などの理由で子どもの面倒を見られない日が緊急的に発生した際に、当日の申込みでは受け付けてもらえない。また一時預かり助成金制度があるが、対象者の枠が非常に狭いなどの問題がある。育児を行う親にとっては緊急の課題と考えられる。

## ②担当課単独での権限や予算を超えており、政策的判断が必要な案件。

### 1. 災害ごみへの対応について

平成 29 年 7 月の豪雨災害で被災した大森地区の市民より、自分が被災した経験から災害ごみへの対応についての多くの意見をいただいた。災害ごみである事の確認方法や運搬手段など極めて多岐にわたっており、災害時のルールや受入体制全般を見直す必要があると思われる。

## ④その他委員会で特に調査研究が必要と判断する案件。

### 1. 産後ケアについて

赤ちゃん訪問について1回だけ来てくれることに何の意味があるのか。また、この訪問がその後のケアに全くつながっていないという意見があった。例えば核家族である事や家庭の状況を確認したら、その状況に応じた相談体制へつなげて欲しい、産後疲れへのフォロー、母乳ケア、メンタルケアなど全般にわたる産後ケアが欲しいという意見があった。

### 2. 多胎家庭への支援について

双子であれば通常の家計と比べて2倍の金銭的負担が発生し、家計への影響も非常に大きい。また子育ての労力も2倍となる。行政の支援をお願いしたいとの意見があった。

### 3. 母親教育について

子育てをする母親の意識も変えていく必要がある。行政で母親教育を行って欲しいという意見があった。

### 4. 児童館や施設の年齢による入場規制について

小学生と幼稚園児とゼロ歳児を育てているが、年齢による入場規制のため3人一緒に遊びに連れて行ける場所が無いという意見があった。全国的にも話題になっている問題である。

### 5. 学童保育について

施設的な問題や、受け入れの基準、支援員の体制、学校との連携に課題が見られる。また民間の学童保育が無いことや、障がい児の受け入れ態勢を含めて、行政による運営だけというところにも

問題があるのではないかという意見があった。

#### **6. 天下森スキー場中腹のヒュッテについて**

天下森スキー場の中腹にあるヒュッテはなぜ使わないのかという意見があった。現在スキー教室等で休憩場所が不足しているが、中腹のヒュッテは老朽化により使えない状況であり、FM計画での天下森スキー場の位置付けを考えると対策を検討していくべきと思われる。

#### **7. 民生委員について**

民生委員も高齢化しており、交代したくてもなり手がいないという意見があった。また、時代の移り変わりとともにプライバシー保護の観点などから訪問の方法も難しくなっており、隣の家で何をしているかも分からないような状況である。孤独死の問題など地域で守りきれない状況となってきたとの意見があった。民生委員の在り方に課題が出てきている。

#### **8. 健康づくり入浴サービス事業について**

同事業を利用するには市役所に行って様々な手続きをしなければ券をもらえないが、他市では年齢さえ証明できれば半額になるというやり方をしているところもあり、横手市もそのように出来ないかとの意見があった。そもそも同事業の利用率が低いこともあり、そのあり方自体が課題である。

#### **9. 市営墓地について**

持ち主がいなくなった墓が増えたり、合葬墓の話が出たりしているのに、現在造成している分も含めてこんなに必要なのかと思う。作るだけでなく未使用の墓地の管理についてももう少し融通を効かせたやり方があっても良いのではないかとの意見があった。

このほか、委員会審査等において市の見解等を得られた案件については、別紙のとおりである。

別紙 平成30年度 議会報告会・意見交換会・市民と議会の懇談会等でいただいたご意見等で市の見解等を得た事項一覧（厚生常任委員会）

案件分類	ご意見等	議会からの市への指摘等	市の見解等
学童保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の基準を緩和できないか。家に祖父と祖母がいるため、1年生の孫が12月から受け入れできなくなると言われ困っている。子どもの成長にとって、早く家に帰ってきてゲームをするよりも、友達と一緒に過ごした方がよい。</li> <li>・雄物川小の「にこにこキッズ」には沼館保育園から派遣されているようだが、保育士が足りていなくて支援員を雇っているのか？希望する家庭の子どもは受け入れてもらえるような体制にしてほしい。</li> <li>・孫が1年生に入ったが、100軒近い集落からたった2名の入学生で、スクールバスで送迎していただいている。放課後は学童保育でお世話になって、年寄にはありがたい。増田の実情をお聞かせいただきたいが、資料には、保育支援の充足を望むとあるが、増田地域ではどうか。足りているのか。</li> <li>・学童保育の教室は、具合の悪い子供が静養できるスペースがなかったり、トイレの設備が良くない場所が多い。面積要件を満たしているからOKという考えではなく、子どもたちのことを考えた環境にしてほしい。そういった課題点を訴えても学校の先生が代わってしまうとまた一からになる。現場を見てほしい。</li> <li>・秋田市などは民間が学童保育を実施しているところも多く、設定料金は高いが選択肢になっている。障がい児の受け入れ態勢も含めて横手は行政だけの運営というところにも課題があるのではないか。</li> </ul>	<p>横手市の学童保育の支援員は、一人当たり16人から20人の児童を担当しており、過度な負担になっているのではないかと。また勤務時間の短さや勤務時間帯が支援員のなり手が不足する原因になっているのではないかと。</p>	<p>支援員の確保には苦慮している。支援員の時給を上げるなど、処遇改善に取り組み、支援員の確保に取り組みしたい。</p>
民生委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢となり民生委員を交代したくても代わりがいない。活動できる人が委員となるよう市でも考えてもらいたい。どの地域でも後継者で困っている。高齢化の秋田県、年齢制限を設けなくて、元気な高齢者を活用することも考えたらどうか？</li> <li>・民生委員に権限があるわけではない。玄関口で話をしると、部屋に勝手に入るなどと言われる。プライバシー保護によって隣の家で何をしているか分からない。孤独死の問題。地域で守り切れなくなっている。</li> <li>・民生委員が高齢化で、なり手不足。少子化で地区割も大きくなった。全国一律ではなく地域の状況で制度そのものを変えてもよいのではないかと。行政OBの活用。</li> </ul>	<p>民生児童委員の高齢化により、活動が十分にできていないという現状であるが、その中で一生懸命頑張っている方に報いるという意味で、例えば3期を区切りとして表彰するなど、横手市の表彰制度の中でそれを規定できないか</p>	<p>表彰条例を所管している総務課と協議したが、表彰は民生の案件に関して著しい功労のあった方について、選考委員会に諮り決定されるものであり、その都度判断するとの見解であった。担当課としては、相当の功績がある方について、しっかりと表彰対象として提案すべきと考えており、今後調整を図りたい。なお、民生委員を退任された方には、市から感謝状を贈呈している</p>
福祉政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の入浴施設は60歳以上は半額という制度があって、それについて役場まで行っていろいろ手続きをしなければいけない。でもそれはおかしいと思う。市役所に行けない人はなかなかそういうのはもわれない。湯沢の施設では、何歳ということを証明すれば半額ということをしている。そういうような方向にしてほしい。</li> </ul>	<p>健康づくり入浴サービス事業について、わざわざチケットを市役所にもらいに行かなくても、身分証明だけで利用できるようにしてほしいとの要望があるが、どのように考えるか。</p>	<p>現状では金券扱いであり、本人や代理人にきっちり渡すという形は変えられない。より適正な事業となるよう研究し、使いやすい事業にしていければと思う。</p>

別紙 平成30年度 議会報告会・意見交換会・市民と議会の懇談会等でいただいたご意見等で市の見解等を得た事項一覧（厚生常任委員会）

<p>市営墓地</p>	<p>・市営墓地について。自分も数年前に購入したまま市に管理をお願いしているが、今造成している分も含めこんなに必要かと思う。持ち主がいなくなったり、合葬墓の話も出ているので、作るだけでなく未使用の墓地の管理についてももう少し融通を効かせたやり方があってよいと思う。管理する側にも苦労はあると思うが、考えた方がよい。</p>	<p>合葬墓について、決算審査の時に意向調査を実施したほうが良いのではないかという提言をしたが、その後の動きはどうなっているか。</p>	<p>合葬墓については市営墓園整備構想の中でも触れており、平成31年度中には市民アンケートなどで需要見込みを調査し、検討したい。</p>
<p>産後ケア</p>	<p>・赤ちゃん訪問について、来る意味があるのか疑問に思う。ただ母子手帳を見せるだけで、話しもごく一般のことだけで、その子に対してとかその親に対してという内容がない。</p> <p>・赤ちゃん訪問に1回だけ来てもらっても何にもつながっていないと思う。身体測定だけの状況。そこから例えば母乳の相談とか、こういうサークルありますよとか、こういう時はこうですよっていうアドバイスをしてもらえる体制になって欲しい。例えばそこでおじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいないと分かった時点で、何かにつながらせてくれるとありがたい。</p> <p>・産後疲れて眠れなくなって参ったことがある。そのようなときにフォローしていただけるとすごく助かる。産後すぐ子どもと2人きりだどうしても自分を追い詰めてしまったりするので、保健師等のフォローをもっと充実して欲しい。</p> <p>・産後の母乳ケアをしてくれるところが無い。個人でやっている助産師を勧められたが結構お金がかかる。授乳中のケアは病院でもしてくれる。私はすごく産後に張って悩んだ。保健センターに助産師などのケアをしてくれる方がいて、相談ができれば良いと思う。</p>	<p>赤ちゃん訪問の際、いろんな心配事があって聞きたかったが、通りいっぺんの対応で、したかった相談ができなかった。もっと寄り添ってくれるものと期待していたのにそうではなかった、という若い母親たちの意見を伺ったことがあった。この事業のポイントは何か。</p>	<p>新生児の時に一番悩みが多いので、出生届が提出されたら地区担当保健師から電話をかけて訪問している。横手市で安心して育児をしていただきたいという事で行っており、その中でいろんな相談を保健師が関係部署につなげている。このような市民の声を大事にしながら、一人ひとりの保健師が自覚し、対応していきたい。</p>